

緊張感

JJ1SXA 池

女優の市原悦子さんが、深夜のトーク番組でテレビの現場について、「緊張感がね。ピピピッというものが必要ですね」と笑いながら語ったそうです。

舞台は観客の前での真剣勝負だが、テレビは撮り直しがきく、だからダラダラにしてしまい、内輪だけで楽しんでしまっていないかと、苦言を呈したようです。

今の日本は、政治は密室で行われ、病院はミスを繰り返し、警察は被害者の訴えに耳を貸さない、大企業は欠陥を隠し続け、銀行共々誤魔化しを堂々と行う。

全て向き合うべき相手を忘れてしまっているのが原因の大半でしょう、市原さんの言葉は、この現状にぴったり当てはまるような言葉だ、向き合う相手を忘れると緊張は緩む、この際、皆が市原さんの言葉を噛み締めるべきだ、そうでないと、社会が滅んでしまいかねない。

と、大それたことを言っている場合では無い、私自身が、職場から開放されて、サンデー毎日も早や数年、肉体的な衰えは別にしても、気持ちは一向に変わっていないつもりだが、やはり、ピーンと張り詰めた緊張感は、無くなっている、ヤバイ！！

ボケ防止にと、無線関係のこと、パソコン関係のこと、その他にもと、色々の新しいことに手出しをしているが、どれもこれも中々物にならない、中々というよりもほとんど全滅、最初から、気持ちが、ボケ防止に始めたのだから・・・、これができないからと言ってどうってことは無いや・・・と、全くもって緊張感が無いこと夥しい、もちろん年齢ハンデは仕方無いが、だから逆に、若い時の何倍も努力しなければいけないわけだが、つつい楽な方に逃げるのが先になっている。

「昨日かくてありけり、今日もまたかくてありなん・・・」無為の毎日のようだが、そのことを考え、悩むのも余り良くないとも、どこかに書いてありました。

やはり、ここは一番気を引き締めて、やりかけのことを何とかすべく努力が必要のようだと思い立ち、手始めに、丁度どうしても探し出さなければいけない物もあったので、やたら積み上げてあった不要物の片付けをすることにし、4日間くらい朝から夕方までの大半の時間をかけましたが、まだ片付けは半分です、探し物が出て来た時点で、気力が半減しました。

会社から持ち帰った参考資料等は、この際と思い処分しましたが、本は良いのですが、プリントの中には、シュレッターにかけなければまずい物も含まれており、苦労しましたし、何でこんな物を取ってあるのと言うような物を含め、無線関係のガラクタが沢山あり、捨てるに忍びない物も、思い切ってゴミに出しましたが、ふと、考えました、片付けは半分だし、他にもやらなければいけないことが山ほどあるが、全部終ると同時に人生終わりでは困ると・・・「ぼちぼちで良いのだ」が、結論で、無理をしません。